

私を育てた
あの時代、あの出会い

第11回

初任校での挑戦の日々が 教師としての土台を作ってくれた

北海道 札幌市立稲積小学校校長 池田悦子 IKEDA ETSUKO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、池田校長が語る。

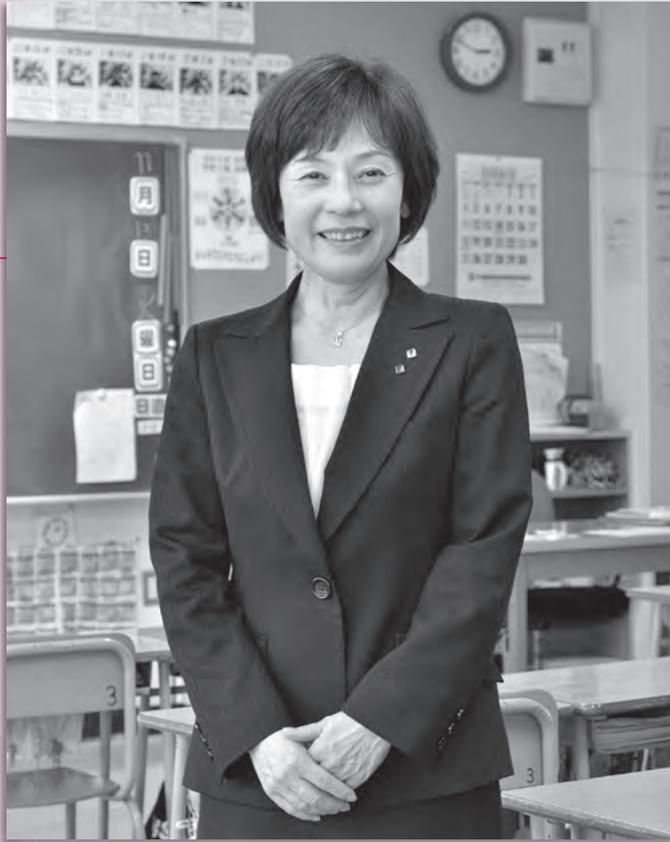
大切なことをつかみ取るまで
新任の私を見守ってくれた

定年を控えて振り返ってみると、私は教師としての土台を初任校でつくったのだとつくづく感じます。それは、研究主任で図画工作が専門の金井秀男先生との出会いにありました。

1つめは、自分の目で見て、自ら学ぶ大切さです。教師1年目、私は3年生担任となり、金井先生が1・2年生を受け持った学級を引き継ぎました。ある日、金井先生が教室に貼られた子どもの写生を見て「担任が代わると、こんなに変わってしま

うのか」とひどく落胆されていたと人づてに聞いたのです。私は自分の指導力のなさに落ち込み、同時に、先生からなぜ直接言われなかったのか理解できませんでした。

その頃は今のようにならぬ研修が整っていない時代で、先輩に「指導力の向上には、良いと思うものを自分で見付けて盗みなさい」とよく言われていました。私はその言葉通り、早速教室を全て回り、掲示物を見て、「好き」と思った絵を子どもが描けるように、子どもの思いを膨らませてから描かせるようにしました。当時の私は何も知らないのに意



いけだ・えつこ 専門教科は保健・体育。身体表現から発展して、絵画表現に関心を持ち、図画工作教育にも造詣が深くなる。現在は北海道造形教育連盟に所属。札幌市立西野第二小学校、札幌市立発寒小学校教頭などを経て、現職。

1975 (昭和50)

新採として札幌市立幌西小学校に赴任。金井秀男先生の影響を受ける



新採として赴任した当時の授業風景

1984 (昭和59)

札幌市立山の手南小学校に赴任。生活科に熱心に取り組む

1994 (平成6)

札幌市立円山小学校に赴任。総務・教務主任を務める

2003 (平成15)

札幌市立八軒北小学校に教頭として赴任

2006 (平成18)

札幌市立いなづみ幼稚園に園長として赴任

2010 (平成22)

前任園の修了児の多くが通う札幌市立稲積小学校に校長として赴任

My History

地だけはありましたから、誰にも聞かず、いろいろな先生のこれほど思う指導もひたすらまねしました。

しばらくして、金井先生が「こういう題で描くといいよ」「コンテをこう使うと表現しやすくなる」と声を掛けてくださるようになりました。試行錯誤の様子や教室の絵を見て、私が指導のコツをつかんだと思われたのでしよう。自ら学び取るまでじつと見守ってくれたのだと思います。

2つめは学びのあり方です。初任校では金井先生が考えた「四層学習」という方法で、1日を「たしかさ」「ゆたかさ」「たのしさ」「語らいと助け合い」と4つの時間に分け、ねらいに沿った教科と内容で授業をしていました。基礎学力を保障しながら、子どもの思いを大切にされた学習を、生活リズムを重視した並びで進めていたのです。

月1回の研究授業では、教師全員で議論しました。率直な意見が飛び交い、新米の私はどの意見も良く思え、全部取り入れようとしてパニック、実践するうちに、金井先生の指導法の考え方が私の中に染み込んでいったのです。

子どもの思いを引き出し、表現させ、大きく育てる。私の指導の根底にはこの思いがあります。生活科では山に行き、自然の中で子どもの感性を揺さぶり、学級のルールは子どもに徹底的に話し合わせて自分たちで決めさせました。それは初任校で一生懸命に学んだことが深く影響していたのだと思います。

子どもの輝く笑顔のために 学校をつくっていききたい

金井先生は、私をもう1つの出会いに導いてくれました。課程移行期に勤めていた学校で、私は教務主任を務めていました。金井先生の実践を知っていた校長が、弾力的な運用が可能な期間に四層学習を生かした教育課程を組めないかと、私に相談したのです。久しぶりに初任校の研究紀要を読み返してみると、あの時から20年経っても、自分にその精神が息づいていることに驚くと共に、子どもにとって重要なことであり、再び実現させたいと強く思いました。

職員会議や部会で、戸惑う先生方と何度も話し合い、授業の進め方を提案していくうちに、先生方の意識が徐々に変わっていきました。授業

「子どもの思いを引き出し 大きく育てることが教師の役目」



を見に行くと、「たしかさ」では算数の基礎にじっくり取り組み、子どもが「分かった」という表情を見せていました。「ゆたかさ」では地域に出て調べ学習をするなど、興味を持ったこととことん取り組む子どもの姿が見られました。教師の意識が変わり、授業が変わり、子どもの学びが変わっていく——輝く笑顔を見せてくれる子どもを目の当たりにし、もっと学校をつくっていききたい、学校を良くしていききたいと思う

ようになったのです。

全校朝会では、私はいつも具体的なものを出して話をしています。読書週間の時は大型本や形の違う本を紹介し、学習発表会の前には教頭と寸劇を披露しました。子どもの思いを膨らませると共に、先生方がその輝きを見て、何かしたいという思いを持つてほしいからです。かつて私がそうしてもらったように、見守りつつも手本を示し、先生方の思いを支えていききたいと思います。